

## 2019 年度実施概要

学校名

八王子市立片倉台小学校

採択活動名

海から未来へ

取り組みの概要

- 海とは接していない地域に住む児童にとって、身近な川を通じて実は海と密接に関係していることを理解し、自分たちの生活を見直すことができる。
- 小学校の学習の総まとめとして、社会や環境との関わり方について考え、よりよい生き方を見つめ直していくことができるようにする。
- 地域運営学校としての地盤を生かし、地域・保護者が学習支援者として参加し、地域の環境について児童と共に学ぶ場とする。

## I 海とつながっているわたしたちの暮らし

## ■ 社会 「わたしたちの暮らしと水」(1学期実施)

- ①日頃、蛇口をひねると、当たり前のように出てくる水が、どこから、どのように届いているのか調べる学習の一貫として、東京都の水道キャラバンを招き、上水道の仕組みを知る。
- ②自分たちが排水溝に流した後の下水が、どのように処理されて海へ繋がっているか、水の循環について知る学習として、東京海洋大学名誉教授石丸隆先生を招いて、八王子市の下水処理場の曝気層内の微生物を分けてもらい、観察を行うことにより、自分たちの生活を見直すことができるようにする。

## ■ 総合的な学習の時間 「MOTTAINAI について考えよう」(1～2学期に実施)

社会の「わたしたちの暮らし『ごみのしよりと再利用』・『わたしたちの暮らしと水』」の学習と関連して、日常のもったいないことに目を向け、食の残菜を減らしたり、下水処理を要する牛乳の飲み残しを減らしたりする意識をもち、環境全般に関心をもって生活を見直すことができるようにする。

## ■ 国語 説明的文章「きょうみをもったところを中心に、紹介しよう『ウナギのなぞを追って』」(3学期実施)

事実と考えの記述に気を付けて、調査の道筋を読み取るとともに、著者である塚本 勝巳氏ご本人を招請し、どのような思い、調査により、長年人類にとって未知の存在であったウナギの卵を発見したかの話をしていただき、自分たちの生活と結び付けて、環境全体を考えていけるようにする。

上記は単なる座学ではなく、アクティブラーニングの視点から児童の研究発表の対象とする。

塚本氏、石丸氏に講評をいただく。

## II 海から未来へ

## ■ 理科

○5年生の理科で、メダカは池や川では水中の小さな生き物を食べて生きていることを学習し、6年生では、さらに自然界全体の食物連鎖について学習する。その学習のまとめ・広げようでカワセミや海の食物連鎖との関連で、「チリメンモンスター」であるプランクトン等の観察を行う。また、4年生の国語「ウ

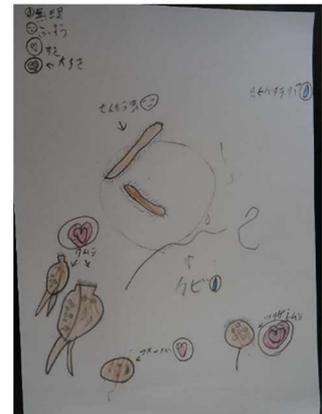
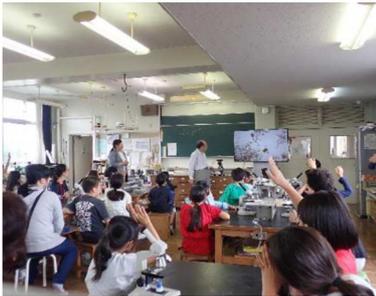
ナギのなぞを追って」で学んだウナギの幼魚「レプトセファルス」の観察も行う。

○最終単元「自然とともに生きる」では、水の循環・生物と環境について考えていく。

\* チリメンモンスター及びレプトセファルスの観察の学習に関しては、東京海洋大学名誉教授石丸隆先生にご協力依頼。

## 実施単元名 活動中の写真

### 1. 4年生「八王子から海まで～水はどこからどこへ～」



### 2. 6年生「宇八王子から海まで～チリメンから海を学ぶ～」

